

(2)大郷町スマートスポーツパーク事業について

①SSP事業による農業関連のメリット

担い手不足の解消

スポーツ選手が従事することのほか、若い世代などに広く農業の実情をPRする機会の獲得が期待でき、将来的な後継者の発掘につながる可能性が高まる。

農産物のブランド化

スポーツ選手とのコラボにより、農産物に対して付加価値を生み出し、消費量の増加だけでなく、商品価格の向上なども期待できる。

6次化産業の推進

スポンサー企業により、ブランド化した農産物を更に活用した形での事業展開が期待でき、安定的な取引先の確保が期待できる。

②町がスポーツX(株)を信用する理由

赤字でも経営ができています

財務状況調査を経営診断のプロである七十七リサーチ&コンサルティング(株)に委託し実施。赤字決算が続いていることを確認。しかし、グループ会社6社を経営できている状況も確認。

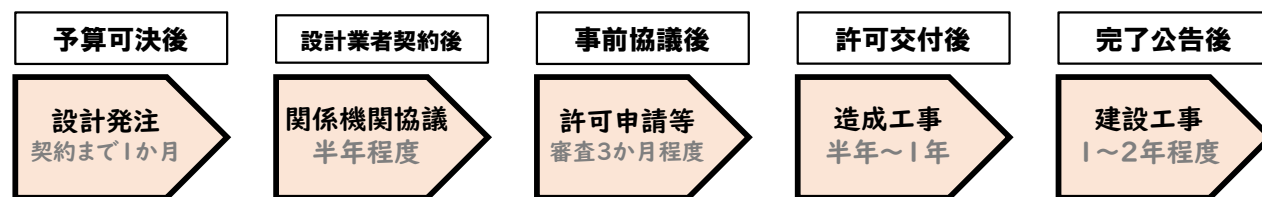
事業計画を県が承認

決算状況を含めた宮城県の審査をクリアし、経営状況や事業計画が宮城県が認められるレベルであることを確認。

企業の理念と活動がマッチ

スポーツ振興を農業振興にも役立てられる可能性が提示され、町としてもその可能性があることを確認。スポーツ振興に可能性を感じる企業が連動して参入検討を始めた。

③実施スケジュール



④総概算事業費(仮)

総事業費		17億円
内訳	町造成費用	1億円
	町その他費用	3億円
	スポーツX(株)費用	13億円

国土交通省から支援として吉田川河道掘削工事の残土提供をいただくことで、造成費の大幅な削減が見込まれています。
(約16億円相当の破格の支援)

※通常の公共事業の補助金は補助率50%程度

(3)町民の皆様にご認識いただきたいこと

- SSP事業において町が行うのは、用地の取得と土地の造成まで
- 用地費と測量費を除く町が支出する委託費や工事費などの事業費の財源は、寄附された企業版ふるさと納税を活用し、町民の税金は使用しない予定です
- 国土交通省の支援により、約17億円分の造成費用を最大限抑えられるのは今しかない
- スポーツX株式会社が施設の建設・維持管理・運営をすべて行います
- SSP事業の施設の維持管理・運営の面で町は関与しません
グラウンドのメンテナンス等にも関与しません

おおさとスマートスポーツパーク構想 第2回住民説明会資料(概要版)

令和6年8月13日現在

大郷町

※掲載内容はすべて令和6年8月13日現在の検討内容です※
※今後、関係機関との協議などにより変更となる可能性があります※

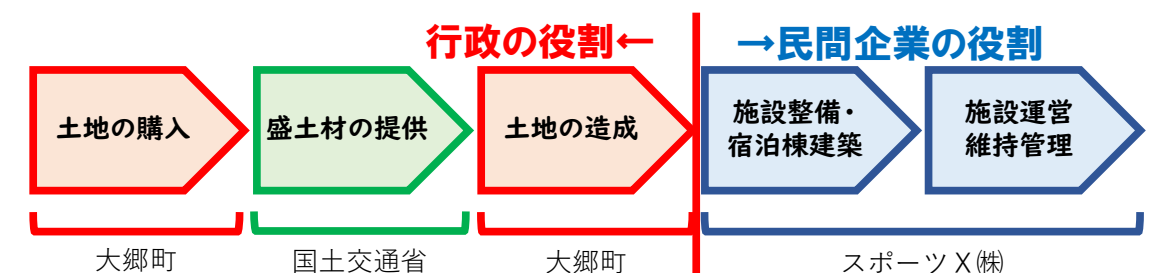
はじめに

町民の皆様にお伝えしたいこと

- 本構想は、本町が過疎を脱却することを目的としています。
- スポーツX(株)の誘致は、目的達成のための手段の一つです。

企業の誘致は出発点であり、誘致した企業とともにどのようなまちづくりを展開することができるか、町民一丸となって考える未来のまちづくり推進事業が本構想です。

大郷町	国土交通省	スポーツX(株)
土地の購入・造成 ⇒造成後、賃貸	盛土材提供(約16億円相当分の土量見込み)	整備工事・建築工事 ⇒工事後の運営・維持管理



(1) おおさとスマートスポーツパーク構想について

①計画地と計画概要



②事業のねらいと目的

- 中粕川地区の約60haに、大郷町の基幹産業である農業が抱える諸問題の解決を図るため、新たな地域振興施策を強力に後押しする“**地域振興交流拠点**”の実現を目指します。
- 『おおさとスマートスポーツパーク構想』(以下、SSP構想と称す。)は、官民一体による“**農業振興**”×“**スポーツ振興**”を柱に
 - 都市住民と町民との交流促進
 - 町内農業者等との協力・連携
 - 中粕川地区の復興まちづくりやかわまちづくり事業と連携 等により、地域の活性化を図ります。
- スマート農業を実践する法人の誘致や新たな“**地元農産物のサプライチェーン**”の構築により、持続的な営農環境や農地の保全、活用を図ります。

大郷町が抱える諸問題

人口減少・流出

農業の担い手不足

農業従事者の高齢化

問題解決の一翼を担う
新たな地域振興策の実現が必要

(仮称)おおさとスマートスポーツパーク構想 農業×スポーツによる 地域振興交流拠点づくり

●農村と都市の交流拠点

・農業体験・スポーツ、イベント等による交流

●農産物サプライチェーン拠点

・生産から処理加工、流通・販路までの一団地化

●新たな農業の生産拠点

・スマート農業(ITを駆使した農業、施設園芸等)による産地化

●農業を中心とした観光・にぎわい拠点

・地産地消レストラン・宿泊によるにぎわい・魅力創出/かわまちづくり事業・まちなかとの連携

連携・機能分担

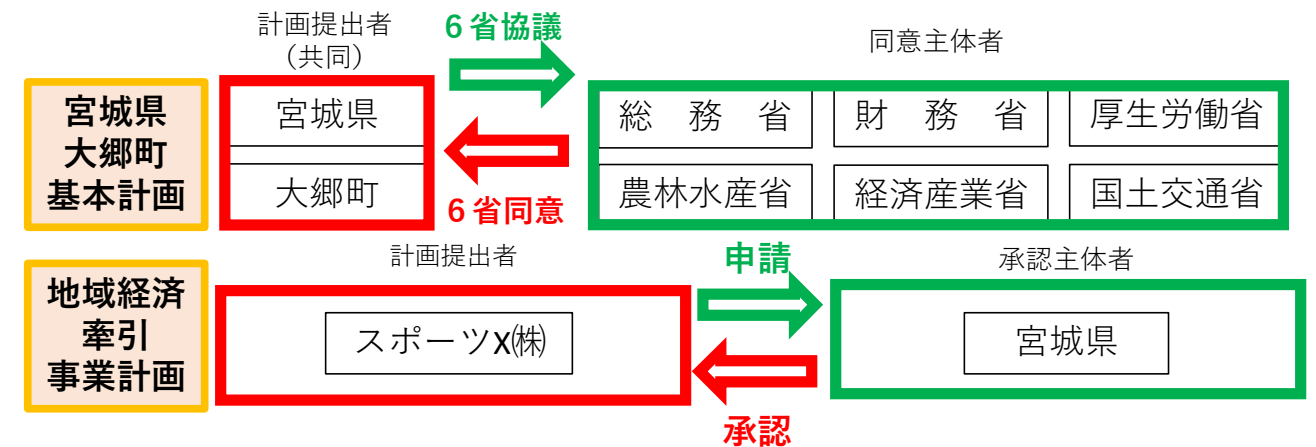
【大郷町かわまちづくり事業】

農村と都市を
水辺でつなぎ、交流人口の拡大を目指す

(1) おおさとスマートスポーツパーク構想について

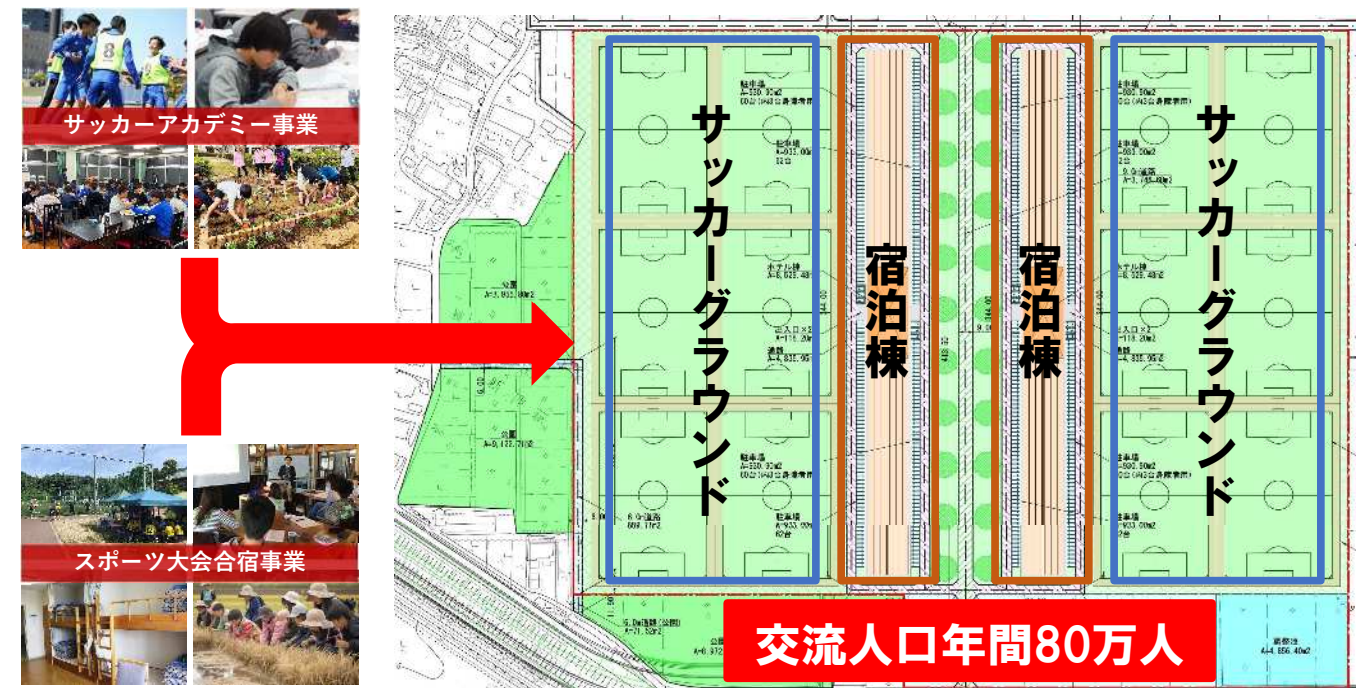
③計画地への企業誘致の方針

- 『SSP構想』における拠点づくりは、町が想定した拠点に関連する事業を実践する企業が立地することと位置付けました。
- そのため、企業の誘致が円滑に進むよう、立地した企業にいくつかのメリットが受けられる“**地域未来投資促進法**”に基づく「宮城県大郷町基本計画」を策定しました。
- この基本計画において、構想計画地は①**スポーツ振興分野**、②**農業振興分野**、③**観光振興分野**の3分野の**事業者を集積する用地**としています。



④大郷町スマートスポーツパーク事業の概要

- サッカーグラウンド12面(天然芝4面・人工芝8面)と合計1,200人収容の宿泊棟2棟整備し、寄宿制のサッカーアカデミー事業や大会・合宿の誘致、企業研修や修学旅行での大口の宿泊の誘致により収益を見込むもの。(※グラウンド貸出事業も実施するが大きな収益は見込まない)



参考 交流人口とは

- 交流人口とは、その地域を訪れる人々のこと。その地域に住んでいる人(定住人口又は居住人口)に対する概念である。その地域を訪れる目的としては、通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造、学習、習い事、スポーツ、観光、レジャー、など、特に内容を問わないのが一般的である。(出典:観光用語集)